

空と雲と、

ときどき春の野を行く



mashita sakana

春来りなば、お出かけしよう。
でも、けして急いでは行けません。
あっちこっち、寄り道、道草、方向転換。
今来た道を振り向けば、
誰かが私を追い抜いて行く。

誰よりも彼よりも、ゆっくりと歩こう。
それが、春の歩き方。



わんこよ。
いいところに座ってるね。

其のどろんとした目が、
いかにも暖かそうじゃない。



←こっち側が春で

この下あたりをツバメが飛んでいるんだけど
速すぎて撮れない



こっちはまだ冬→

ぺんぺん草なわけだけど、、、
実は”なずな”、などという優美な正式名称を
もっていて、
春の七草なわけだが、これを食べたいとは思わないな



タンポポ

一度だけ白いタンポポを見たことがある
だからどうということはない。

そんなことより、

こどもの頃はタンポポを食べてはいけないと教えられたが、
大人になってタンポポコーヒーなるものがあることを知って
驚いた。



梅や桜の開花は話題になるけど
放っておかれるのが桃。

植物に詳しくはないのだけれど、
これは多分桃だ。

だって、桃色なんだもの。。。

いや、桃だから桃色なのであって、桃色だから桃とは言えないよなあ。



こどものころに、見た記憶がない
でも、実家に帰ると良く見かける

どうして子供の頃は、気がつかなかったんだろう。





もう、なにがなんだか。
これぞ雑草魂。。。雑草魂？



キャベツ畑の上を飛んでいる蝶を見ると、
ちょっとうんざりしませんか。

だって、彼女達って、蜜を吸うんじゃなくて、、、



朝の通勤電車の窓から見ると、とても奇麗なのだけれど、
だからと言ってこの季節だけゆっくりと走ってくれる、
なんていうサービスは無い









遠近法

なのだけど、どうして遠いものが小さく見えるのかは
知らない。



もんぺに鍬

ここだけ昭和の匂いがする。

ところで、もんぺってどこで売ってるんだろう。

もしかして、通販？







いかにも引っ付いちゃいそうなつんつん。



つくし。

もう開ききっているから、こいつは食べても美味しくない。

、、、そもそも美味いっていう味じゃないな。



3 発機だ。DC10?

空、白っぼいなあ、、、





すみれ、とくれば、



次は、れんげ

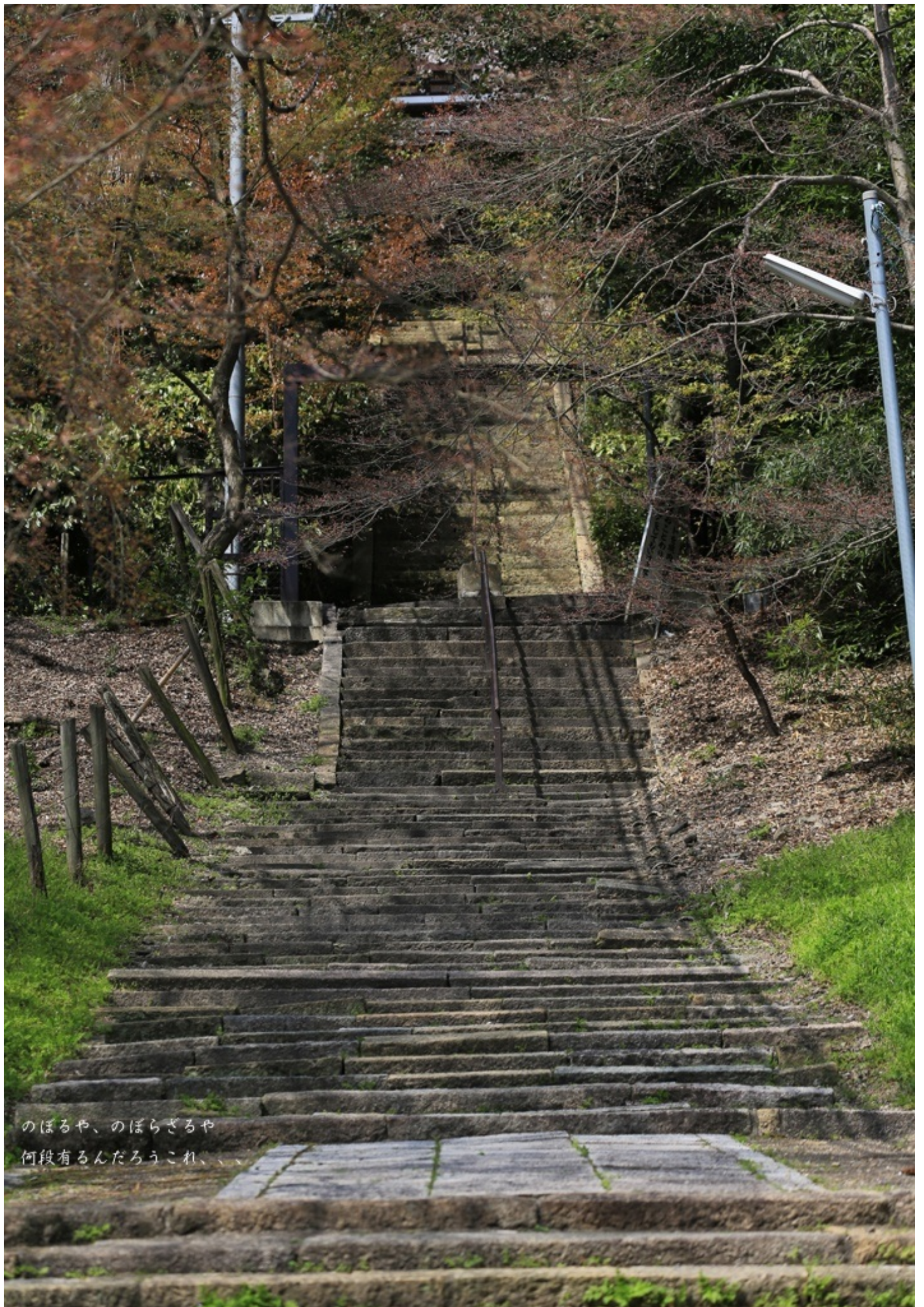












のぼるや、のぼらざるや
何段有るんだらうこれ、

でもね、登らないって言う選択は無いんだ。

だってそこには、大抵こんなご褒美が用意されているのだから



決して息切れなんてしてないし。。。。



やあ、おつかれさま







写真集「空と月と、夜桜デート」
写真集「空と木と、ときどきの梅暦」
写真集「空と窓と、京都の路地は奥に深いです ni」
写真集「空と窓と、京都の路地は奥に深いです」
写真集「空と木とたまに月」
写真集「からくれないに」

「黄金の麦畑」

1. Largo

第1回 ～ 第41回

「黄昏の王国」

イーリアス編

アリシア編

— 僕カノシリーズ —

「僕が彼女に殺された理由（わけ）」

「僕と彼女の選択の事由（わけ）」

「僕と彼女はそれしか答えを見つけられなかった。」

「僕と彼女はそれでも答えを探し続ける」

「僕と彼女と複雑な関係者たち」

「僕と彼女と単純な関係式」

「僕と彼女と校庭で」

「僕と彼女と校庭で 夏」

「僕と彼女のアリア」

「僕と彼女のインベンション」（次回）



— その他 —

傘がない

夕暮れの赤ちょうちん

いもうと

サマータイム・ブルーズ

危険なドライビングマジック

デフラグメント

インフルエンス あのころの僕たち

花舞い、名残り雪

詞画集「ただ憧憬だけを」

写真集「空と雲と、ときどき月」

写真集「夢みる桜」